

(様式2・中学校用①)

令和元年度 学 校 評 価 報 告

草加市立青柳中学校

(令和2年2月12日作成)

1 学校教育目標 自ら考え実践する生徒（知） 心豊かで思いやりのある生徒（特） 健康でたくましい生徒（体）	
2 重点目標・努力目標 (1) 規律ある生活 (2) 確かな学力 (3) 健康・体力 (4) 安全・安心な生活	3 前年度の成果と課題 成果 ○職員会議・研修会や学年会を通し職員の共通理解・共通行動により、生徒は落ち着いた学校生活を送ることができた。 課題 ●不登校解消に向けて、効果的な組織体制を構築する。

4 評価表 ※評価基準【A：十分達成している B：おおむね達成している C：やや不十分である D：不十分である】				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等	B	○職員会議等で情報の共有が図ることができた。 ○校務分掌は適切な職員配置であった。 ●会議に係る時間に課題があった。
	②研究・研修	・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成	B	○教科間の授業見学やA訪問を通して授業改善に取り組んだ。 ●校外研修に参加する人に偏りがあった。
	③保健管理・安全管理	・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用	A	○計画的の避難訓練が実施できた。 ○毎月の安全点検が実施できた。 ○保健指導は適切に行われた。 ○学期に1回、エピペンの練習を行った。 ○来客用インターホン設置と玄関の施錠。
	④情報管理・施設設備管理	・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用	A	○個人情報情報を徹底的に管理することができた。 ○施設設備の不具合に迅速な対応ができた。
	⑤地域との連携 開かれた学校	・学校情報の発信 ・学校公開の実施 ・学校運営協議会、 学校評議員制度の活用 ・地域、校種間連携 ・PTA活動の活性化	B	○学校だより・学年だより・学級通信を通して学校の様子を発信できた。 ●授業公開日の増加を図る。
	⑥幼保小中を一貫した教育	・目指す子ども像の共有 ・15年間を通じた教育課程の編成 ・一貫教育推進のための組織づくり	B	○小学校との合同研修会等を通して目指す子ども像の共有ができた。 ○交流行事を計画的に実施できた。 ●幼保小中一貫を図った授業を推進する。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題	0
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	・15年間を通じた教育課程の編成、実施 ・教育計画の作成 ・教育活動の評価 ・目標、方針の周知 ・授業時数の配当、確保	B	○学校だより・ホームページ等、教育目標や方針の周知が図られた。 ○授業時数の調整により時数の均等化が図れた。 ●授業変更を減らしていく。	
	②教科指導	・指導計画の立案 ・主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 ・評価、評定の工夫 ・外部人材の活用	B	○ICT機器を活用し、わかりやすい授業実践を行った。 ○研修会等を通して授業改善が図られた。 ●主体的対話的深い学びの授業改善。	
	③道徳教育	・全体計画の作成 ・各教科との関連 ・道徳実践力の育成 ・家庭、地域社会との連携 ・いのちの教育の推進	B	○各学年、学年全体でローテーション授業を計画的に実施した。 ○各学年、いのちの教育の推進ができた。	
	④特別活動	・指導計画の立案 ・学級活動、学級経営 ・学校行事 ・生徒会活動	B	○行事等に関連づけ、計画的に実施してきた。 ●行事の指導に充てる時間と学級活動に充てる時間の調整が必要である。	
	⑤「総合的な学習の時間」の指導	・指導計画の立案 ・指導内容の充実 ・指導方法の工夫と改善 ・評価の工夫 ・地域の人材・物的資源の活用	B	○各学年とも計画的に実施できた。 ●毎年度、計画を見直し時期等の調整を図る。	
	⑥生徒指導	・組織的な生徒指導 ・問題行動への対処 ・教育相談、生徒理解 ・いじめ防止対策 ・保護者、地域、諸機関との連携	B	○情報共有を図り、一つ一つ丁寧に、かつ早急に対応することができた。 ●不登校解消に向けての取り組みの強化が必要である。 ●相談室登校生徒の対応について再考が必要である。	
	⑦キャリア教育	・組織的なキャリア教育 ・指導方法の工夫と改善 ・啓発的経験の充実 ・進路情報の収集・活用 ・職場体験活動	B	○1学年の職場体験、2学年の上級学校学習会等、各学年にあった進路教育ができた。 ●保護者向けに学年の時期に合った進路情報が提供できるとよい。	
	⑧特別支援教育	・個別の指導計画、支援計画 ・指導方法の工夫と改善 ・通常学級との交流 ・諸機関との連携 ・校内支援体制の整備	B	○特別支援学級の生徒が交流学級に入り、行事に参加することができていた。 ●通常学級で支援が必要な生徒に対し、特別支援学級と連携・協力して、支援をすることが必要である。	
	⑨学校図書館教育	・指導計画、支援計画の作成 ・図書館補助員の活用 ・諸機関との連携 ・図書館の整備 ・図書館利用の工夫	B	○図書館の整備がしっかりとされており、図書館だよりや掲示物が充実により、生徒の興味・関心が高まった。 ○学級文庫や話題の書籍など充実していて利用者が増えている。	

	⑩情報教育	・教育計画の作成 ・校内研修の充実 ・ICT機器の積極的な活用 ・情報モラル教育の推進	B	○ICT機器を効果的に活用する教員が増えた。 ○ICT機器の活用法の研修を計画的に行った。 ●ICT支援員の効果的な活用を考えていく。
	⑪人権教育	・全体計画の策定 ・各教科との関連 ・人権感覚の育成 ・校内研修の充実	B	○DVD視聴等による人権教育の研修を実施できた。 ●教科との関連について意識的に取り組む必要がある。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
Ⅲ 特色ある学校づくり	学力向上	・家庭学習の習慣化 ・家庭学習ノートの活用 の仕方 ・授業規律の徹底 ・思考力、判断力、表現 力を育成する言語活 動の充実 ・1時間毎の授業改善	B	○各学力調査結果を分析し学力向上プランに見直し、計画的に学力向上を推進した。 ○市学力向上に係る訪問指導により、教員の意識を高めることができた。 ○自主的に課題を決め、毎日家庭学習の取り組みを行った。 ●家庭学習ノートの取り組みが曖昧で具体的にどのように取り組めばよいかの提示が必要である。 ●教職員一人ひとりが意識し、授業規律をさらに徹底させる必要がある。
	生徒による自治的活動	・生徒会活動の活性化 ・活発な部活動 ・道徳教育の推進 ・いじめ撲滅への取組 ・居場所作りの支援 ・研修体制の確立	A	○いじめ撲滅「ストップイット」の取り組みを行った。 ○いじめ撲滅「ピンクシャツバッジ」の取り組みを生徒会が中心に行った。 ○委員会活動の進行を生徒に任せることにより、委員長らの責任感が増した。 ○部活動に活気があり、成果につながった部活動も多くみられた。

5 総合評価 (学校関係者評価を含む)

- ・学力向上に向けて、組織的に取り組む動きがみられた。家庭や学校での学習習慣が身につくように指導していく必要がある。
- ・小学校との連携・交流を幼保小中一貫教育の発表後も継続して行うことができた。行事等の交流にあたっては一部の職員に偏った分担の取り組みとなっているので次年度からは分担の工夫が必要である。
- ・道徳の時間は学年職員全員が同じ項目をローテーションで全クラス同じ指導過程で授業を行った。
- ・不登校生徒の解消については課題が残った。相談室経営を含めて、教育相談の体制を見直す必要がある。
- ・地域、町会の事業（盆踊り大会、運動会、防災訓練等）に積極的に参加して欲しいとの要望があった。

6 次年度の改善策

- ・学力向上に向けては、授業改善と同時並行で家庭学習の習慣化が必要である。家庭学習の効果的な取り組みの検討が必要がある。
- ・幼保小中一貫教育では、今までの取り組みを振り返り、来年度の取り組みを精選する必要がある。より実践的な内容の幼保小中研修会を実施する。
- ・不登校生徒解消に向けて、教育相談体制を見直し、教室復帰に向けて様々な方面からアプローチできるようにする。
- ・道徳でのローテーション型授業の課題明確にし、改善を進める。また、評価についての統一見解の共通理解と深化を図る。
- ・生徒指導体制の強化。基本的な生活面を確実に向上できるように組織的に取り組んでいく。
- ・校内研修の充実。学力向上、教育相談、ICTなど日々の教育活動と結びつける。

